

第141回 関西大学メディア懇談会（Web開催） 実施概要

1 日時 2022年3月16日（水）15:00～16:45

2 場所 オンライン形式（Zoom ウェビナー）

3 内容

(1) 研究発表（15:05～15:25） ※20分×1名

発表者： 植田 紀美子（人間健康学部教授）

別紙

テーマ： 障がいのある子どもの well-being 実現に向けて

～ユニバーサルアプローチを用いた子育て支援～

(2) 学内状況の説明（15:25～16:25）

① 2022年度入学試験志願者・合格者状況

P1～3+別紙

② DX 推進の進捗報告

P4～6

③ SDGs 推進の進捗報告

P7～10

・ 大学で使用する全ゴミ袋を“減プラ”エコ仕様に！

・ SDGs パートナーが制度設立1年で33団体に。エネルギーファンディングにも参画

・ 関大 SDGs 書籍『アカデミアが挑む SDGs』を刊行 ほか

④ 学生の夢を応援する「ゆめサポ」制度の活用事例紹介

P11～12

・ コロナ禍で失われた青春を奪還する「高校生活の一日」を再現するプロジェクト

・ 自力開発したフードロスアプリの実用化に向けて、大手企業と実証実験を開始

⑤ 「関大前まちかど図書館」を創設～大手書店連携「新入生に贈る100冊」とコラボ～

P13～14

⑥ 学生の友達づくりを支援！新入生歓迎の集いを開催

P15

⑦ 2022年度（第48回）飛鳥史学文学講座を開催

P16～17

（その他資料）

・ 高松塚古墳壁画発見50周年記念特別公演「伎楽と天王寺舞楽」について

P18

・ 京都国立近代美術館展覧会「サロン！雅と俗 ～京の大家と知られざる大坂画壇」について

P19

(3) 意見交換・質疑応答（16:25～）

・ テーマを問わずその他自由にご意見・ご質問ください。（音声およびQ&Aいずれでも可）

※質疑応答の時間外においても、Q&A機能を使っての質問は随時受け付けます。

→時間の都合上、後日回答になる場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

4 大学側出席者

前田裕学長、青田浩幸副学長、佐々木保幸学長補佐、植田紀美子教授（人間健康学部）、

岩崎波留奈入試広報グループ長、松並久典総合企画室長、藪田和広学長室長、

植田光雄学長課長、依藤康正広報課長 ほか

以上

【次回のメディア懇談会（第142回）について】

2022年5月中下旬の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

障がいのある子どもの well-being 実現に向けて ～ユニバーサルアプローチを用いた子育て支援～

人間健康学部 教授 植田 紀美子

【概要】

格差社会が懸念されつつある近年、その格差を抑える可能性のある手法としてユニバーサルアプローチが注目されている。集団全体に均一に働きかけて集団全体を変化させつつ、あわせて社会的に不利な度合に応じて対策を強化することで、集団全体に恩恵がいきわたる普遍的（ユニバーサル）な方法である。

これまでの研究を通じて、障がいのある子どもの家族は、特に育児に困難感を感じており、障がい受容や子どもの発達支援を含めた子育て支援を必要としていること、インクルーシブな社会における関わりが有益であることを明らかにしてきた。そのため、真に子ども全体に恩恵がいきわたるような子育て支援を目指すには、ユニバーサルアプローチの観点から障がいのある子ども等の社会的に不利な立場にある子どもに対する対策の強化が有益であると考えられる。

障がいのある子どもの well-being を実現していくこと、つまり、心身ともに健康で幸せに過ごすことは、本人や養育者のみならず、養育者亡き後の将来の介護者にとっても必要である。「こころ」「からだ」「くらし」の観点から障がいのある子どもの健康(well-being)について、国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health; ICF, WHO) によるアセスメントや健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health; SDH, WHO) を明らかにすることを試みている。そして、障がいがある子どもとない子どもの間に生じる健康格差がどの程度あり、格差を生じさせる要因は何であるかを整理することで、すべてに恩恵がいきわたる子育て支援の推進に寄与することを目指している。

子育て世代包括支援センターにおける障がいのある子どもへの対応に関する調査を行った。当該センターは、フィンランドのネオボラをモデルとした「包括的・継続的な支援システム」の導入を目指し、2020 年度末を目途に整備されてきた市町村の拠点で、妊娠・出産・子育てをワンストップで支援している。調査を通して見えてきた、健康格差を生じる背景の一例を紹介する。

【プロフィール】

1996 年自治医科大学卒業、2001 年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程 (MPH) 卒業、2003 年自治医科大学大学院博士 (医学) 取得。専門は公衆衛生学 (障がい児者)、小児臨床遺伝学、疫学、母子保健学。大阪急性期・総合医療センター小児科、大阪府、厚生労働省、米国ハーバード大学公衆衛生大学院研究員をへて、大阪母子医療センターにて 13 年間、実務・臨床・研究に従事。2021 年 4 月、関西大学人間健康学部に着任。臨床経験を活かした教育、障がいのある子どもやその家族を対象とした研究を行う。